



2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社

2026年2月13日

東証GRT
336A

- 01 2026年3月期 通期業績予想の修正
- 02 2026年3月期 第3四半期実績
- 03 パイプラインアップデート
- 04 Appendix

01

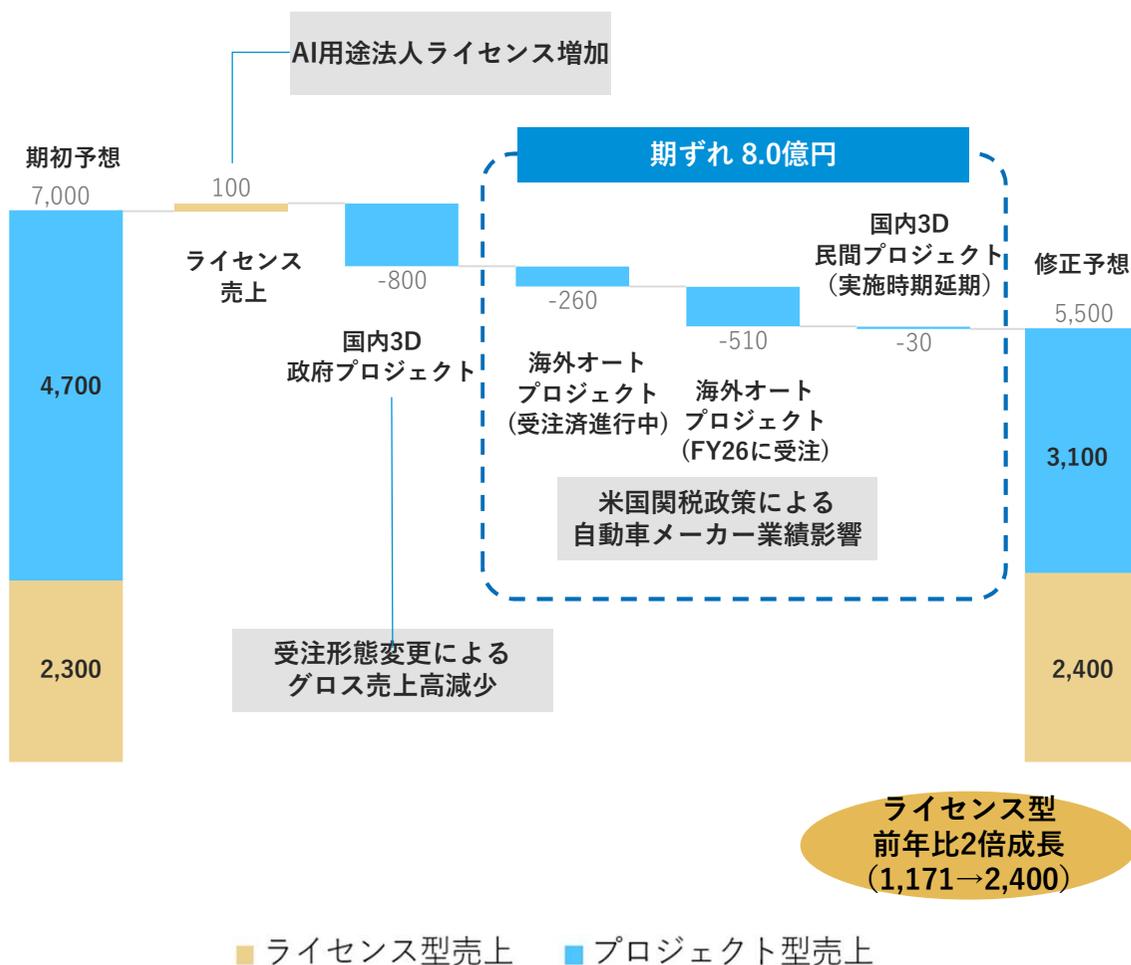
2026年3月期 通期業績予想の修正



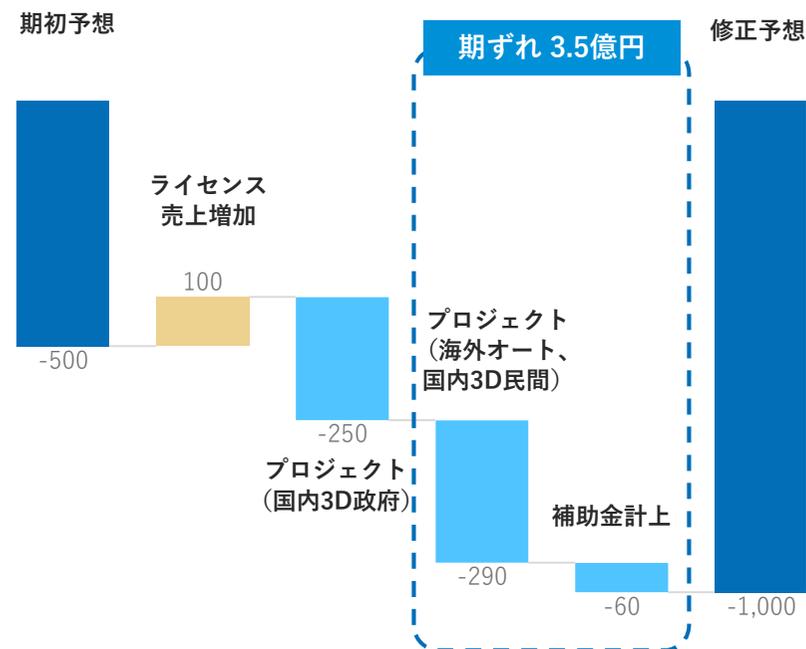
案件期ずれを主要因として通期業績予想を修正

ライセンス型は前年比2倍成長を見込む一方、期ずれを主要因としてプロジェクト型が大幅減少
 通期業績予想を売上高55億円（期初予想比15億円減）、ライセンス型売上高24億円（同1億円増）、
 調整後EBITDAマイナス10億円（同5億円減）に修正

売上高（単位：百万円）



調整後EBITDA（単位：百万円）



注：調整後EBITDA = EBITDA（営業利益 + 減価償却費）
 + 政府補助金（営業外収益に計上される） + M&A関連費用

ライセンス型はAI用途・新車搭載で好調。プロジェクト型は期ずれと政府案件縮小で不調

ライセンス型：AI用途で法人ライセンスが牽引。量産ライセンスは新車種へ搭載開始し堅調
プロジェクト型：受注形態変更により政府案件縮小、GM案件期ずれにより計画下回る

カテゴリー		計画比	今期進捗と対策
ライセンス型	オートモーティブ法人ライセンス	◎	<ul style="list-style-type: none"> AI需要増: 自動運転車本格普及に向けて受注増（ウーブンバイトヨタ向け、海外大手半導体メーカー向け等）第4四半期も追加受注狙う
	オートモーティブ量産ライセンス	○	<ul style="list-style-type: none"> 搭載車増: Honda「アコード」、SUBARU「アウトバック」が発売開始され量産車種は37モデル（世界最多）。第4四半期には更に追加1車種を発表予定
	3Dデータライセンス	△	<ul style="list-style-type: none"> 立上遅延: 3Dmapspocket®、SRSS¹などシステム開発とパートナーリングは進展するも本格的な事業規模確立に時間を要す。第4四半期から来期に向けて見極め
プロジェクト型	3Dデータプロジェクト	×	<ul style="list-style-type: none"> 政府規模縮小: 受注形態の変更により受注規模が大幅縮小 × 民間期ずれ: 物流向けでニーズ高。今期売上貢献は期ずれにより限定的 △
	オートモーティブプロジェクト	△	<ul style="list-style-type: none"> GM期ずれ: 新規整備が中東当局との折衝で期ずれ。米国関税政策によるGMの業績事由から新規整備の受注が翌期へ延期。近日、正式受注を見込む △

計画比 ◎: 上回る、○: 計画通り、△: 下回る、×: 大きく下回る

来期はライセンスビジネス拡大と固定費減少により売上拡大・収益性向上する回収期へ

来期業績予想については通期決算発表日に開示予定だが本日来期の方針を提示

- **ライセンス拡大:** AI需要から約80%超の粗利率を維持して今期売上2倍を見込む。来期も継続成長
- **固定費減少:** 新規整備完了したことで海外人員最適化4.1億円その他、大幅な固定費減が可能に

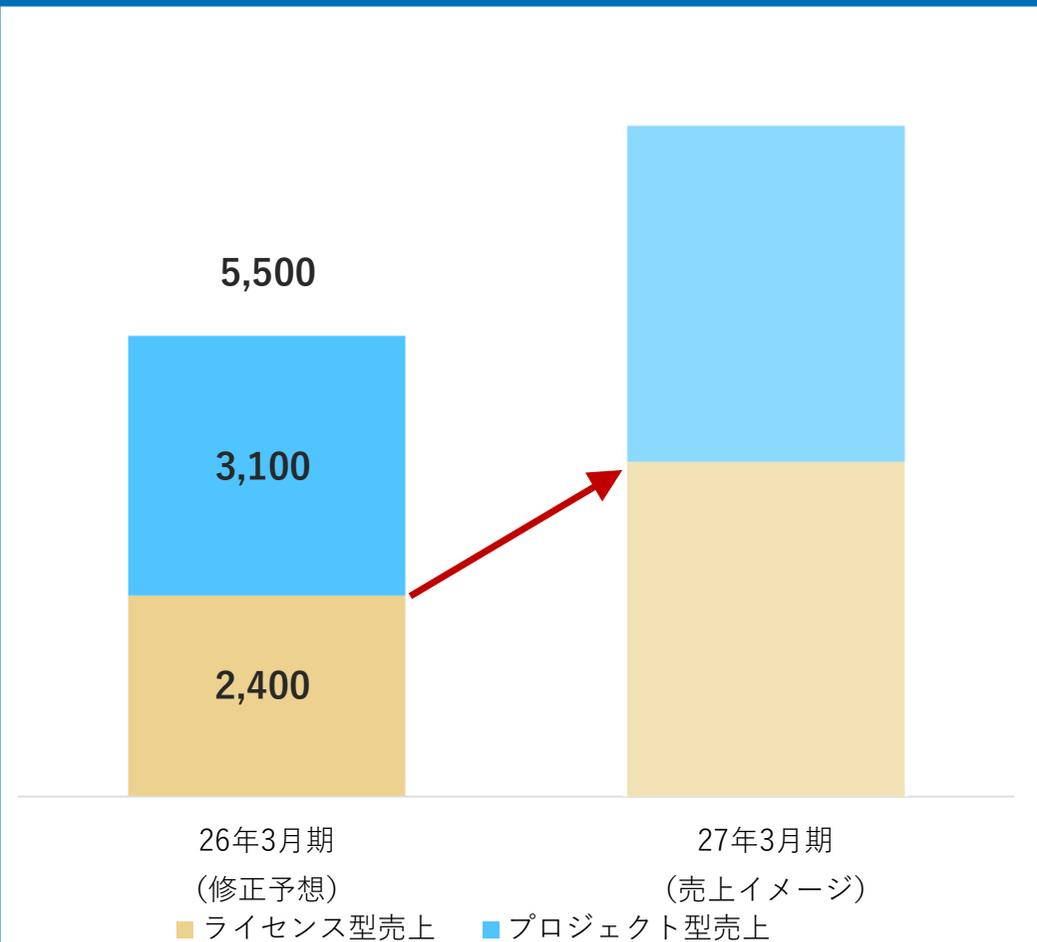
2027年3月期取り組み方針

重点領域	攻め	<ul style="list-style-type: none"> ● VLA¹・E2E² AI自動運転向け法人ライセンス ● フィジカルAI含むシミュレーション向け法人ライセンス ● 搭載台数累積による量産ライセンス増加 ● 新規国進出・地方展開 (M&Aロールアップ)
	守り	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトは政府から民間へリスクヘッジ ● 事業段階変化に伴い海外人員最適化4.1億円をはじめ固定費削減

創業来初めて新規整備が収束し生産体制を最適化

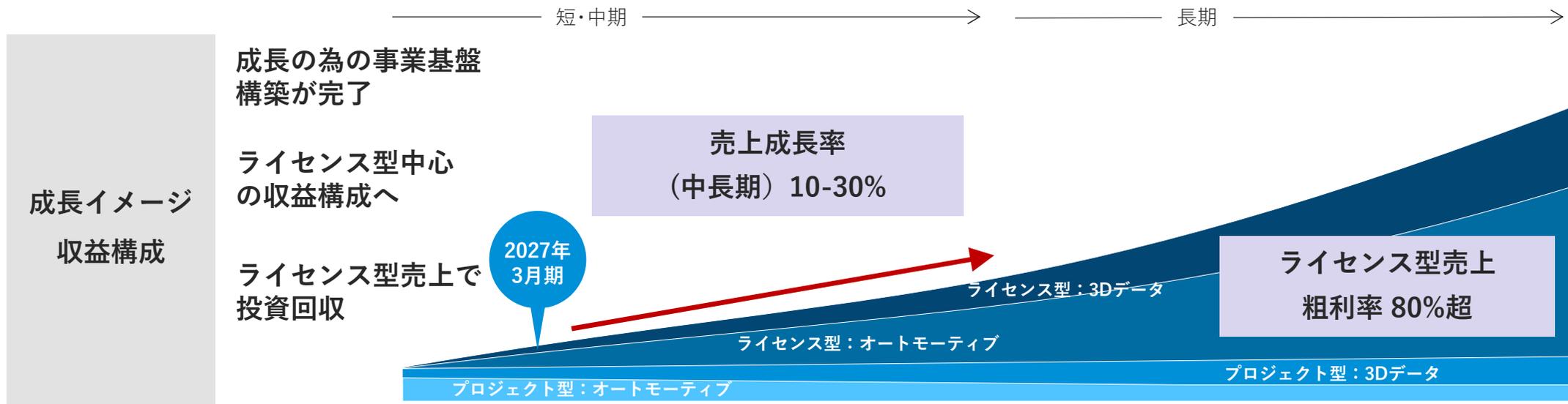
事業フェーズ	求められる代表的な職種	生産量・体制
~2025 新規整備	<ul style="list-style-type: none"> □ フィールドエンジニア □ データプロセッサ □ プログラムマネージャー 	多い
2026~ 提供+更新	<ul style="list-style-type: none"> □ アプリ開発者 □ データアナリスト □ セールスエンジニア 	少ない

売上高 (単位: 百万円)



粗利率80%超のライセンス型を伸ばし中長期で成長率10-30%で成長を続ける

成長の為の事業基盤構築が完了したため、来期よりライセンス型中心の収益構成へ 投資回収フェーズへ移行



成長イメージ 収益構成	成長の為の事業基盤構築が完了		
	ライセンス型中心の収益構成へ		
	ライセンス型売上で投資回収		
	売上成長率 (中長期) 10-30%		
	ライセンス型売上 粗利率 80%超		
カテゴリ別 施策	3Dライセンス	販売パートナーを通じた拡販	海外展開・用途拡大
	車載ライセンス	新規顧客数拡大 既存顧客の搭載車種拡大	新規搭載台数+累積搭載台数増加による 成長の加速
	法人ライセンス	AI用途法人ライセンスの拡大	
	3Dプロジェクト	ライセンス商品開発を目的に案件受託	
	オートプロジェクト	データ更新継続・需要に応じて新規整備	

注：(1) 記載の収益推移はイメージであり、達成を保證するものではありません

02

2026年3月期 第3四半期実績



2026年3月期 第3四半期 サマリー

量産・法人向け共にオートモティブライセンスが着実に進捗。3Dライセンス商品化に向けた民間企業との取り組みが進捗
 開発面では、Data解析へのAI活用、NTT-MEとの連携を通じた提供データカバレッジの拡大、ドライブゲームへのデータ提供
 によるエンタメ領域への取り組み等が進捗。測量会社ネットワーク化（ロールアップ）に向けた案件検討継続

主な取り組み

事業

- SUBARUの北米市場向け新型「アウトバック」に当社高精度3次元地図データが搭載（搭載は計6社/37車種に）
- 海外大手半導体メーカーとのAI用途でのオートモティブ法人ライセンス案件（Data for AI）契約締結
- 物流自動化の実装に向けた民間企業との取り組みが進捗（政府主導から「官民連携」、「民間主導の自動化投資」へと実証・投資の裾野が拡大）
- 進出国数27ヵ国目における新規データ整備に向けた準備進捗

開発

- 実世界の地図データを自然言語で解析できるAIプラットフォームの開発に取り組み。自動運転/ADASの開発や都市設計、インフラ管理など幅広い用途でのData解析にAIを活用。「CES2026」当社ブースにて展示
- NTT-MEと連携開始。同社が自社の設備点検で取得する点群データを当社の提供する3次元点群ビューアー「3Dmapspocket®」において閲覧可能に。一般道を含むより広いカバレッジを提供し、地域課題の解決に貢献
- 3Dmapspocket®を「点群ビューアー」から「総合3D空間プラットフォーム」に格上。都市開発・インフラ管理・不動産・事故調査など非自動車領域へ新たな市場での利用を見込む
- フランスのインディーゲームスタジオ「Apex Studio」に当社の高精度3次元データを提供。現実世界の道路を忠実に再現した没入感あふれるドライブ体験を、ゲームを通じて世界中のユーザーに提供

M&A

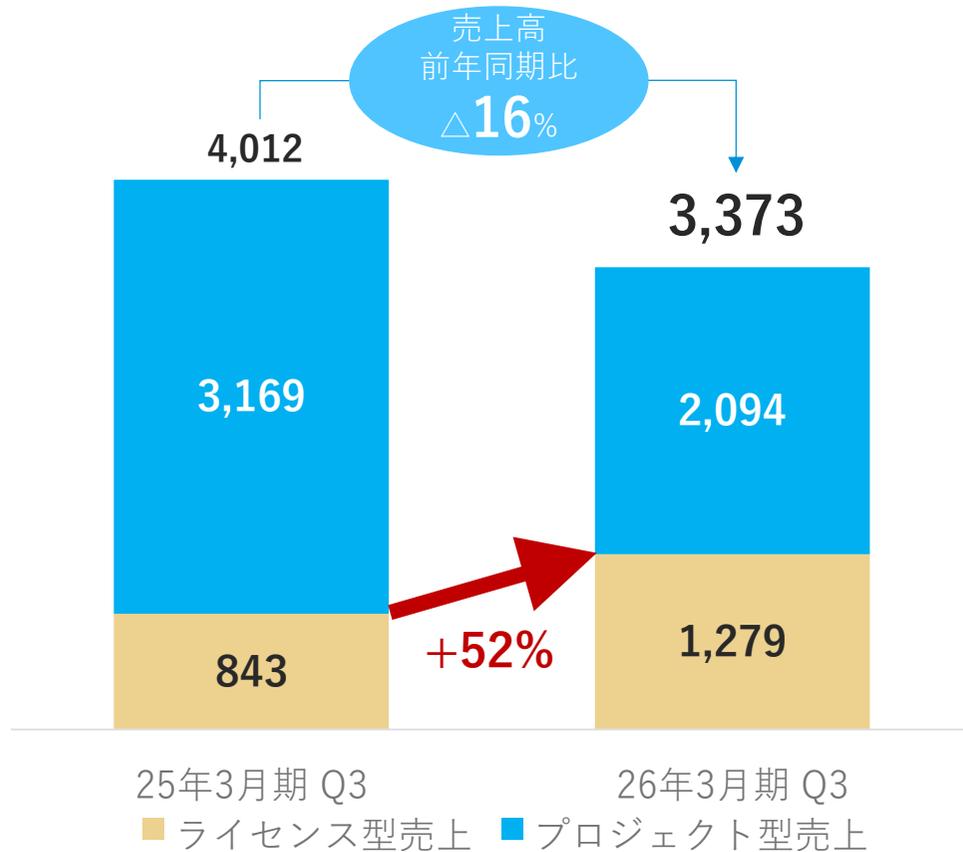
- 地域のデジタルインフラ整備を担う測量会社のネットワーク化プロジェクトの1号案件クローズ
- ロールアップに向け、複数の後続案件の検討が進む

2026年3月期 第3四半期累計 連結業績ハイライト

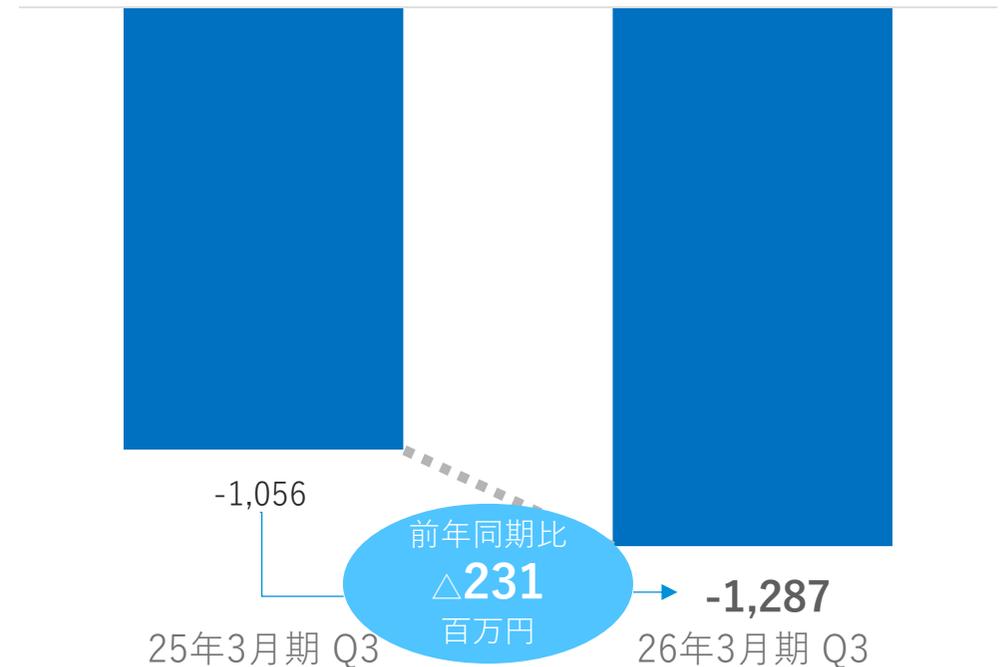
「ライセンス型売上」は前年同期比52%増なるも、海外オートプロジェクトの売上減・国家プロジェクトの受注規模縮小によりプロジェクト型売上が減少し「売上高」は前年比16%減。AI用途でのオートモーティブ法人ライセンス案件（Data for AI）によりライセンス型売上が増加するもプロジェクト型売上の減少を補い切れず

売上減少の影響により、利益指標である「調整後EBITDA」のマイナス幅拡大

売上高（単位：百万円）



調整後EBITDA（単位：百万円）



注：調整後EBITDA = EBITDA（営業利益 + 減価償却費） + 政府補助金（営業外収益に計上される） + M&A関連費用

03

パイプラインアップデート



ライセンス型ビジネス（3Dデータ）

グローバル150万Kmの広範な整備済み保有データと蓄積技術をベースに営業活動に注力。販売パートナーを通じたデータ拡販に取り組み。販売規模は拡大途上

国内における除雪、事故調査、道路管理用途では継続的な利用を見込む。海外州政府向け案件は翌期以降に向けて受注活動継続

主なパイプライン⁽¹⁾

顧客	事業内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> Guidance商品 Viewer商品 法人データライセンス 契約済み 商談中⁽²⁾ 更新箇所 </div>							
		FY22	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	
地方自治体	除雪	■	■	■	■	■	■	■	
大手損害保険会社 事故調査会社	事故調査		■	■	■	■	■	■	
大手道路管理会社	インフラ管理		■	■	■	■	■	■	
海外州政府	V2X			■	■	■	■	■	
海外州政府	インフラ管理					■	■	■	
海外ソフトウェア会社	シミュレーター、 産業用					■	■	■	

販売パートナーを通じたデータ拡販に向けた取り組み

海外ソフトウェア会社との提携

- 2025年8月より、ドイツのシミュレーションソフトウェア企業PTV Groupが新たにリリースしたプラットフォーム（Model2Go for PTV Vissim）を通じて、**交通シミュレーション領域で当社の高精度3次元データをグローバルに提供開始**
- 2025年12月に、フランスのゲーム開発会社APEX Studio向けに自動運転にも使用される当社の高精度3次元データを提供（右図）。これにより、**現実世界に限りなく近い、没入感あふれるドライブ体験を世界中のゲームユーザーに提供**



注：(1) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(2) 商談中:「契約済み」に至るまでの様々な段階で交渉が継続している状況を指します。パイプラインによっては具体的な諸取引条件について明確になりつつあるものも含まれますが、いずれも法的拘束力のある契約の締結には至っておらず、今後の契約締結及び収益計上について何ら保証されるものではありません。

ライセンス型ビジネス（オートモーティブ）

搭載車種増加に加え、自動運転・ADASへのAI利用が進行する流れにおいて当社データへの需要を見込む

大手自動車メーカーグループ、自動運転システム開発会社、海外大手半導体メーカー等からの法人ライセンス需要を捕捉。販売実績のある顧客への追加販売（用途・地域の拡大等）も含めて、法人ライセンスの引き合い・商談増加

主なパイプライン(1)(2)(3)

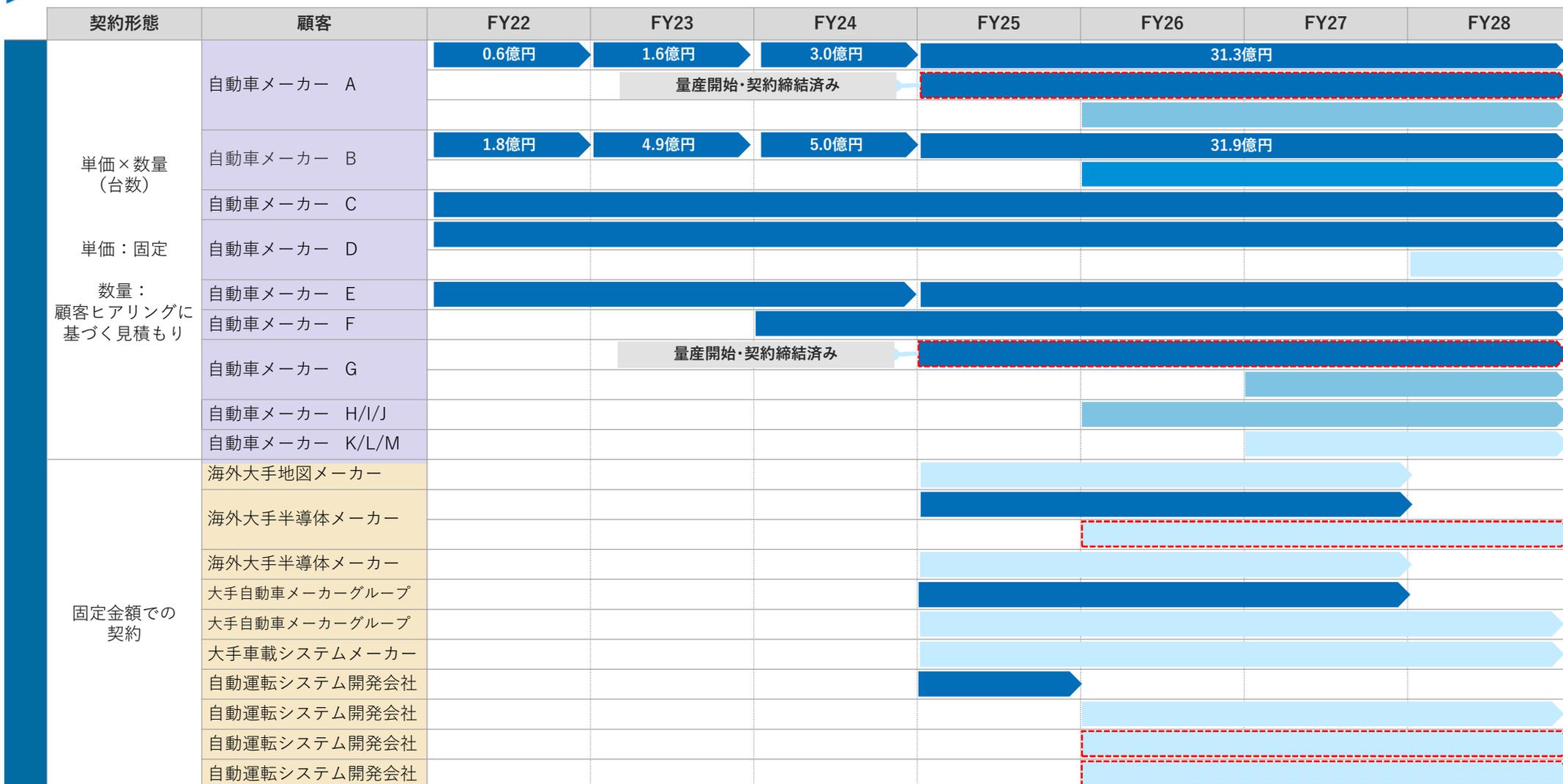
量産ライセンス

法人ライセンス

契約済み

RFQ⁽⁴⁾RFI⁽⁵⁾商談中⁽⁶⁾

更新箇所



注：(1) これらのパイプラインに記載の金額はあくまで契約に基づく単価と顧客ヒアリングに基づく販売台数見積りにより想定される収益見込み金額であり、実際の販売台数が見積りを下回った場合には、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 為替レートはFY22は131.43円/ドル、FY23は140.56円/ドル、FY24は151.58円/ドル、FY25以降は140円/ドルで計算。(3) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(4) Request For Quotation: P15の注参照。(5) Request For Information: P15の注参照。(6) 商談中: P12の注参照。

プロジェクト型ビジネス（3Dデータ）

日本政府との強い関係性に裏付けされた、3Dデータビジネスにおける複数の国家プロジェクト受託実績。2025年度、順次契約締結済み

民間主導の自動化投資拡大の動きを受けて民間企業との案件増加。複数年にわたる継続プロジェクトとして取り組み

主なパイプライン（2022年以降売上計上分）⁽¹⁾⁽²⁾

契約済み

商談中⁽³⁾

更新箇所

契約形態	顧客	プロジェクト	FY22	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28
固定金額での契約	NEDO	グリーンイノベーション基金	1.2億円	6.8億円	3.2億円				
	デジタル庁	デジタルツイン構築に関する調査研究	6.7億円						
	デジタル庁	モビリティ分野における産業用データ連携基盤の整備に関する実証調査研究		2.7億円		コンソーシアム経由で受託			
	NEDO	デジタルライフライン			14.6億円				
	経産省	Bridge公共エリア向けダイナミックマップ		1.0億円	2.1億円	2.1億円			
	経産省	令和5年度「標準加速化支援事業（高精度3次元地図データに関する国際標準化）」		1.3億円					
	総務省	「新東名高速道路の一部区間における自動運転レベル4トラック実証と連携したV2N通信を用いたユースケース実証に関する検討」							
	国土交通省	日ASEAN相互協力による海外スマートシティ支援策							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							複数年にわたる継続プロジェクト
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
民間企業	物流自動化に向けた取組								
民間企業	物流自動化に向けた取組								

国の長期的な計画に基づき
継続的な受注を見込む

※国家プロジェクトは
単年契約のためFY26以降は契約未了

注：(1) これらのパイプラインはあくまで契約に基づいて想定される収益見込み金額であり、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 為替レートはFY22は131.43円/ドル、FY23は140.56円/ドル、FY24は151.58円/ドル、FY25以降は140円/ドルで計算。(3) 商談中：P12の注参照。

プロジェクト型ビジネス（オートモーティブ）

安定した収益を確保し自己負担を軽減しながら、事業基盤であるHDマップカバレッジを拡大

受注済新規整備案件で一部期ずれが発生。受注を見込んでいた新たな国・地域での新規整備案件が翌期以降に受注延期

主なパイプライン（2022年以降売上計上分） (1) (2) (3)

契約済み

RFQ⁽⁴⁾RFI⁽⁵⁾商談中⁽⁶⁾

更新箇所

契約形態	顧客	プロジェクト	FY22	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28		
契約で定める 固定金額での受注 複数年度に渡る 合計金額：固定 各年度への配分：売上 実績及び当社見積り	自動車メーカー	新規整備	1.9億円								
		新規整備	2.6億円	7.2億円							
		新規整備		6.7億円	18.0億円	6.8億円					
		新規整備		0.6億円	0.03億円	3.6億円（一案件規模拡大）		一部FY26に期ずれ			
		新規整備	8.0億円	2.2億円	0.9億円						
		新規整備	1.1億円	3.4億円							
		新規整備			受注契約締結済み						
		新規整備									
		新規整備									
		更新整備	6.9億円	10.2億円	13.2億円	14.5億円					
		更新整備			受注契約締結済み						

代表的な案件

自動車メーカーを顧客としたHDマップ整備

- 米国、欧州等の主要道路をHDマップとして整備し、カバレッジ距離に応じた収益を獲得
- 既存地域での追加整備に加えて、新規地域で継続した取引を予定
- 更新整備についても、継続して安定的な収益を獲得

注：(1) これらのパイプラインはあくまで契約に基づいて想定される収益見込み金額であり、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(3) 為替レートはFY22は131.43円/ドル、FY23は140.56円/ドル、FY24は151.58円/ドル、FY25以降は140円/ドルで計算。(4) Request For Quotation: 顧客からの見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）を受領し、その回答を行っている状況を指し、当該見積依頼書や回答自体には法的拘束力はなく当該見積依頼書や回答に基づく契約が将来締結される保証はありません。一般に、自動車業界においては数年先のサービス提供開始を見据えて開発契約や生産計画が検討されることが多く、見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）を受ける時点においては当該パイプラインの具体性が高まっている状況にあると考えられるものの、見積依頼書に対して回答を行った取引内容や販売条件等がその後変更または失注となり、当社グループが想定する収益につながらない可能性があります。(5) Request For Information: 顧客から情報提供依頼書（RFI：Request for Information）を受領し、その回答を行っている状況を指し、当該情報提供依頼書や回答自体には法的拘束力はなく当該情報提供依頼書や回答に基づく契約が将来締結される保証はありません。すなわち、「RFI：Request for Information」の段階は、見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）受領に至る前段階であり、当該情報提供依頼書への回答で行われた取引内容や販売条件等は「RFQ：Request for Quotation」及び「契約済み」に進捗する段階においてその後変更または失注となり、当社グループが想定する収益につながらない可能性があります。(6) 商談中: P12の注参照。

Modeling The Earth

高精度3次元データプラットフォームとして様々な情報を集約
分析・制御・予測が可能な世界を実現し、社会課題解決に資する
イノベーションを実現



04

Appendix



連結損益計算書


 連結損益計算書

(単位: 百万円)

	2025/3期 Q3 累計	2026/3期 Q3 累計	増減	2024/3期	2025/3期
売上高	4,012	3,373	▲639	5,567	7,465
売上原価	3,539	3,556	+16	5,655	6,144
売上総利益 (損失)	472	(183)	▲655	(88)	1,320
販売管理費及び一般管理費	1,894	1,962	+67	2,466	2,540
営業利益 (損失)	(1,421)	(2,145)	▲723	(2,554)	(1,219)
営業外収益	57	134	+76	331	116
営業外費用	166	88	▲78	266	311
調整後EBITDA	(1,056)	(1,287)	▲231	(2,203)	(609)
経常利益 (損失)	(1,530)	(2,098)	▲568	(2,490)	(1,414)
特別利益	-	-	-	75	-
特別損失	-	-	-	1,627	-
税金等調整前当期純利益 (損失)	(1,530)	(2,098)	▲568	(4,042)	(1,414)
法人税等合計	8	140	+132	7	130
当期純利益 (損失)	(1,538)	(2,239)	▲700	(4,050)	(1,544)
非支配株主に帰属する当期純利益 (損失)	(0)	(2)	▲1	(1)	(0)
親会社株主に帰属する当期純利益 (損失)	(1,538)	(2,237)	▲699	(4,049)	(1,544)

(売上高内訳)

	2025/3期 Q3 累計	2026/3期 Q3 累計	増減	2024/3期	2025/3期
売上高	4,012	3,373	▲639	5,567	7,465
国内売上高	719	878	+159	1,654	2,693
海外売上高	3,292	2,494	▲798	3,913	4,771
プロジェクト型売上高	3,169	2,094	▲1,075	4,572	6,293
ライセンス型売上高	843	1,279	+436	994	1,171

連結貸借対照表

連結貸借対照表	2025/3末	2025/12末	増減
資産			
現金及び預金	8,383	5,167	▲3,215
その他	4,178	1,561	▲2,617
流動資産合計	12,562	6,729	▲5,832
有形固定資産	652	601	▲50
無形固定資産	2,644	3,211	+567
投資その他の資産合計	117	121	+4
固定資産合計	3,413	3,934	+520
資産合計	15,975	10,663	▲5,311
負債・純資産			
一年内返済予定の長期借入金	3,491	1,197	▲2,293
その他	2,533	1,979	▲554
流動負債合計	6,024	3,177	▲2,847
長期借入金	750	637	▲112
その他	241	352	+110
固定負債合計	991	990	▲1
負債合計	7,016	4,167	▲2,849
資本金	2,755	100	▲2,655
資本剰余金	9,567	11,054	+1,486
利益剰余金	(3,642)	(4,711)	▲1,068
株主資本合計	8,680	6,442	▲2,237
為替換算調整勘定	253	30	▲222
その他包括利益累計額合計	253	30	▲222
新株予約権	19	19	-
非支配株主持分	5	3	▲2
純資産合計	8,958	6,496	▲2,462
負債・純資産合計	15,975	10,663	▲5,311

(単位: 百万円)

コミットメントライン契約
金融機関2社より、借入極度額計2,000百万円

長期借入金
2025年10月、既存借入700百万円を借換
(期間10年元金均等返済)

2026年3月期 通期業績予想修正（主な要因・内訳）

売上高はプロジェクト型の大幅減により、期初予想比15億円減少を見込むものの、内8億円は期ずれ要因
調整後EBITDAは、期初予想比5億円減少を見込むものの、内3.5億円は期ずれ要因

(百万円)	期初予想	修正予想	(増減)	主な要因・内訳		(増減)
売上高	7,000	5,500	-1,500			
ライセンス売上	2,300	2,400	+100		・ライセンス売上	+100
プロジェクト売上	4,700	3,100	-1,600		・国内3D政府プロジェクト	-800
				期ずれ	・海外オートプロジェクト（受注済進行中案件）	-260
					・海外オートプロジェクト（FY26に受注）	-510
					・国内3D民間プロジェクト（実施時期延期）	-30
調整後EBITDA	-500	-1,000	-500		・ライセンス売上増加	+100
					・プロジェクト（国内3D政府）	-250
				期ずれ	・プロジェクト（海外オート、国内3D民間）	-290
					・補助金計上	-60

ライセンス: AI用途法人ライセンス案件（ウーブンバイトヨタ、海外大手半導体メーカー向け等）の売上計上により、期初予想を上回る見込み

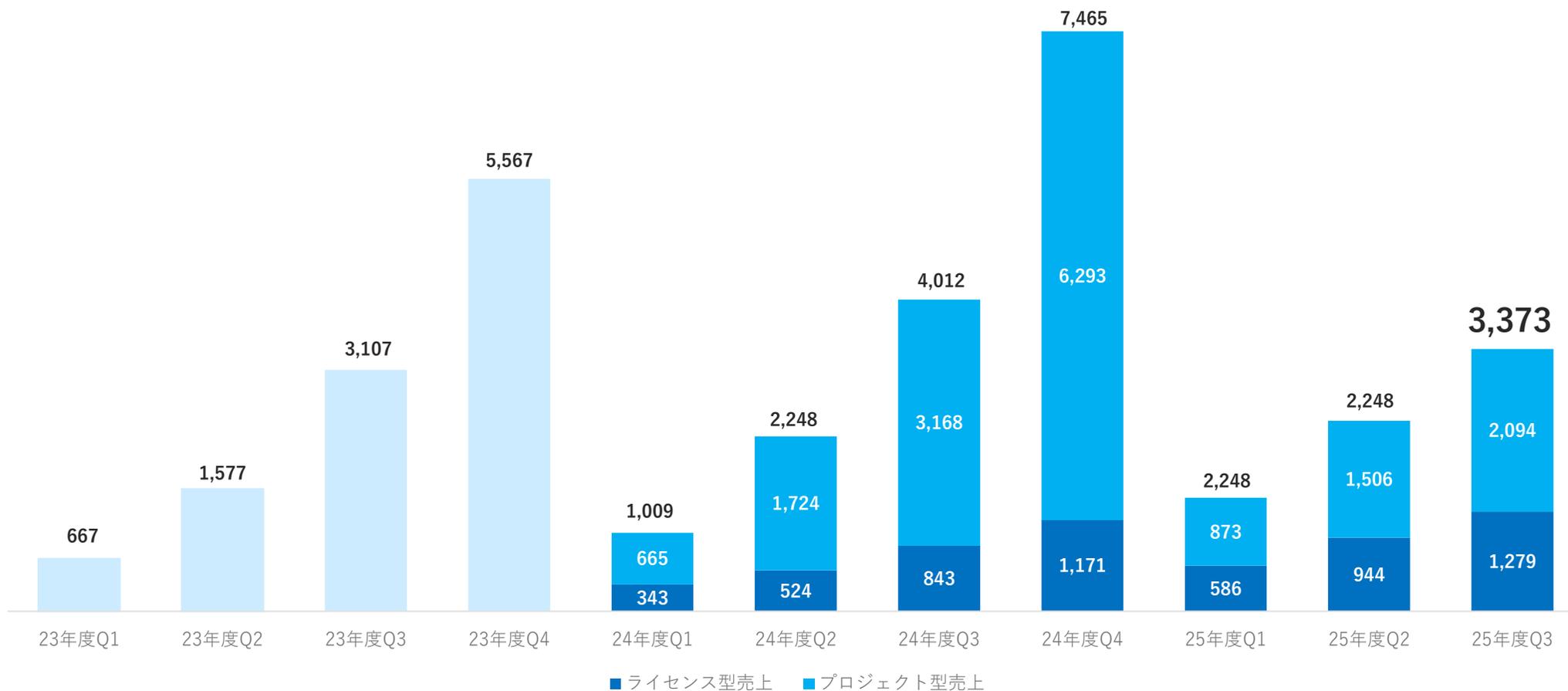
国内3Dプロジェクト: 当社が参画する政府プロジェクト案件が受注形態の変更により当初想定を下回って着地。活発化している民間企業による「自動化投資」需要に対応した取り組みを進めているものの、一部、翌期への期ずれが発生。補助金対象事業は予定通り進捗するも補助金計上時期期ずれ

海外オートプロジェクト: 進行中案件（中東における新規整備）について中東当局との折衝の影響により売上計上が期ずれ。受注を見込んでいたパイプライン案件（新たな国・地域における新規整備）の翌期以降への受注延期。米国関税政策による自動車メーカー及び関連企業への業績影響あり、顧客企業の投資・開発活動が抑制

(ご参考) 連結業績 四半期累計売上高推移

プロジェクト型売上が減少し、第3四半期累計売上高は前年比減少。ライセンス型売上は引き続き増収トレンドを維持

四半期累計売上高（単位：百万円）



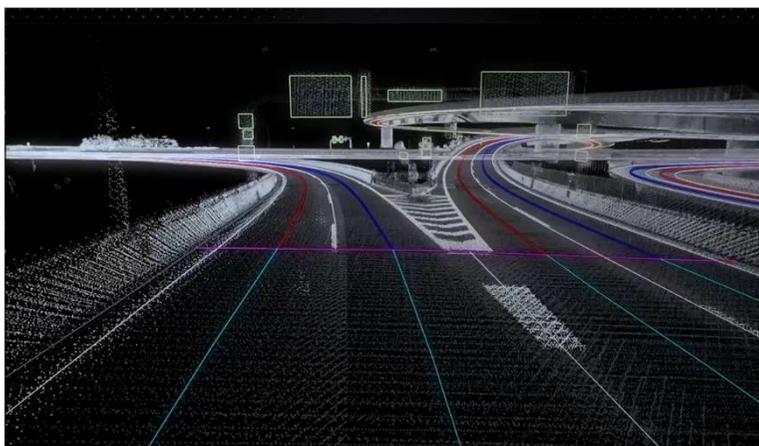
SUBARUの最新型アイサイトに当社の高精度3次元地図データ採用

Dynamic Map Platform North America, Inc.が提供する高精度3次元地図データが、SUBARUの北米市場向け新型「アウトバック」に搭載される運転支援システム・アイサイトに採用

本契約によって当社は総計37車種、6つの自動車メーカーへ当社データを継続的に提供

SUBARUの最新型アイサイト

北米市場向け新型「アウトバック」に搭載される最新型アイサイトの機能には、高速道路でのハンズオフアシスト、安全な車線選択を伴う緊急停止支援、アクティブブレーンチェンジアシスト、カーブ前での速度制御、そして渋滞時発進アシストが含まれています。



高精度3次元地図データイメージ



ホーム > 自動車 ビジネス > 企業動向 > 記事 > 写真・画像

2026年1月15日 (木) 13時00分

スバル『アウトバック』新型、最新アイサイトに高精度地図データ搭載…ダイナミックマップが開発 2枚目の写真・画像



〔photo by SUBARU〕スバル・アウトバック 新型

ダイナミックマッププラットフォームの画像をさらに見る

この記事へ戻る 2/7



ダイナミックマッププラットフォーム スバル アイサイト (EyeSight) スバル (ブランド、自動車)

自動運転、高度運転支援 (ADAS) 注目の記事

自動車総合サイト「レスポンス」によるWeb記事

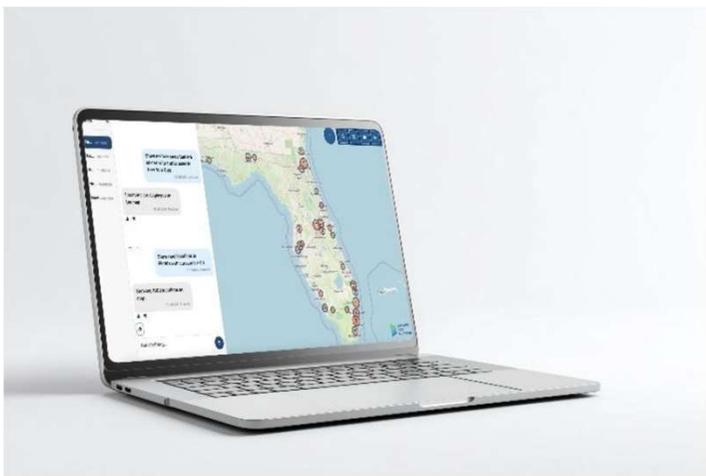
実世界の地図データを自然言語で解析できる AI プラットフォームの開発

実世界の地図データを自然言語で解析できる AI プラットフォームの開発に取り組み。自動運転/ADAS の開発や都市設計、インフラ管理など幅広い用途でのData解析にAIを活用。「CES2026」当社ブースにて展示

実世界の地図データを自然言語で解析できる AI プラットフォーム

本プラットフォームでは生成 AI を活用し、ユーザーが自然言語でプロンプト(指示文)を入力することで、当社の保有する高精度 3次元データから様々な洞察を得ることが可能です。例えば、「全米において片側3車線以上の道路はいくつある?」「そのうち危険な交差点の数は?」と入力すると、数量のみならず該当する箇所を 2D 地図および当社の高精度 3次元データで確認することができます。これは世界最大級のデータアセットを有する当社ならではのサービスであり、自動運転/ADAS の開発や都市設計、インフラ管理など幅広い用途での活用が可能です。

当社はこれまで、「AI for Data」の取り組みとして Data 生産過程の効率化目的で AI を活用してきましたが、今後は本プラットフォームを通じて Data 解析にも AI を活用してまいります。



AIプラットフォームのイメージ

「CES2026」に出展

当社出展内容:

- ✓ 実世界の地図データを自然言語で解析できるAIプラットフォーム
- ✓ 自動運転/ADASの信頼性を高める「高精度3次元地図データ」
- ✓ 「高精度3次元点群データ」によるリアルかつスピーディな交通シミュレーションモデル構築



当社ブースには、自動車業界、その他関連業界、政府機関等の幅広い企業・組織のマネジメント層が来訪され、具体的な商談機会が創出されました。

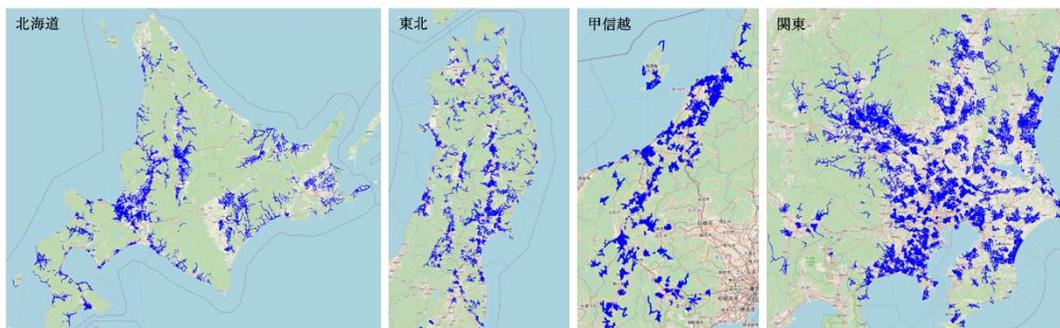
- 主要自動車メーカー・サプライヤー、ADAS向け半導体メーカー
- 米国連邦・州政府（運輸、国防関連）
- ITプラットフォーム企業
- 地理情報システムソフトウェア企業
- 産業ロボティクス関連企業
- 航空・衛星関連企業

NTT-MEとの連携により「3Dmapspocket®」において一般道を含むより広いカバレッジを提供

NTT-MEと連携開始。同社が自社の設備点検で取得する点群データを当社の提供する3次元点群ビューアー「3Dmapspocket®」において閲覧可能に。一般道を含むより広いカバレッジを提供し、地域課題の解決に貢献
既存ユーザーの活用範囲の拡大や、新たな業界への展開などを促進し、市場における点群データ活用拡大を目指す

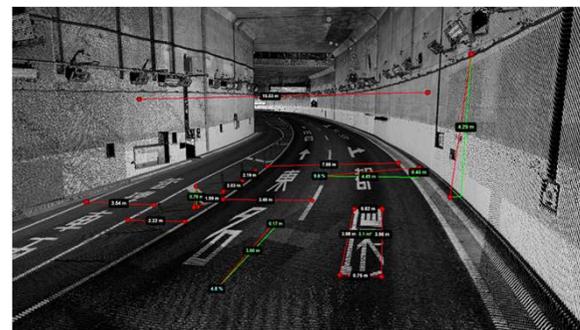
「3Dmapspocket®」におけるデータ提供カバレッジの拡大

これまでの「3Dmapspocket®」ではダイナミックマッププラットフォームが取得した点群データのみ閲覧可能でしたが、今般の連携により NTT-ME が自社の設備点検で取得する点群データも共有し、一般道を含むより広いカバレッジの点群データが活用可能となります。



点群データ閲覧サービス「3Dmapspocket®」について

3次元点群データを閲覧・分析可能なサブスクリプションサービスです。「モバイルマッピングシステム※」により、全国の高速道路/自動車専用道路と主要幹線道路を計測し、その膨大な計測データをひとつに結び合わせた形でデータを提供しています。道路交通上の課題解決をはじめ多彩な用途に使用でき、省人化や効率化の実現、安心・安全な環境づくりに貢献する高精度位置情報プラットフォームとして、様々な用途での利用が期待されています。
サービス詳細: <https://www.dynamic-maps.co.jp/service/viewer/>



ダイナミックマッププラットフォームは「Modeling the Earth」をビジョンに掲げ、現実の世界をデジタル空間に複製し、様々な産業分野におけるイノベーションを共創しています。他方NTT-MEは、自社のアセットを活用して持続可能な地域循環型社会の共創を目指しています。本連携は各社の目指すものが合致したことで実現したものであり、地域課題の解決に資する取り組みを推進します。
なお、今後はデータ共有にとどまらず、各社の技術と専門知識を融合したさらなるソリューションの開発を模索してまいります。

ダイナミックマッププラットフォームとNTT-MEは、各社の知見を集結してデジタルイノベーションの創出に取り組み、様々な産業におけるDXを推進してまいります。

ゲームに高精度3次元データを提供 -リアルなドライブ体験を世界へ-

フランスのインディーゲームスタジオ「Apex Studio」が開発するオープンワールドドライブゲーム「Apex Point」に当社の高精度3次元データを提供

現実世界の道路を忠実に再現した没入感あふれるドライブ体験を、ゲームを通じて世界中のユーザーに提供

「Apex Point」への高精度3次元データ提供

「Apex Point」は、日本の実在する都市や高速道路、峠道などを舞台に自動車の整備やレース、ドライブ、配達業務などを楽しめるオープンワールド型PCゲームです。

今回当社は、神奈川県横浜市の大黒ふ頭エリアを中心とした道路の高精度3次元データを本作品に提供します。自動運転にも使用される当社の高精度3次元データには、実世界の道路情報が高精度に収録されています。データはミリメートル単位の精度で本作品に実装され、地形や高低差を正確に再現したオープンワールド環境を実現します。これにより、現実世界に限りなく近い、没入感あふれるドライブ体験を世界中のユーザーに提供します。

プロモーション動画はこちら:

ショートバージョン (約1分)

<https://youtu.be/2uYG1-gH2HM>



ロングバージョン (約2分)

<https://youtu.be/JuZhmxfgrBM>



<高精度3次元データを使用した「Apex Point」画面イメージ>



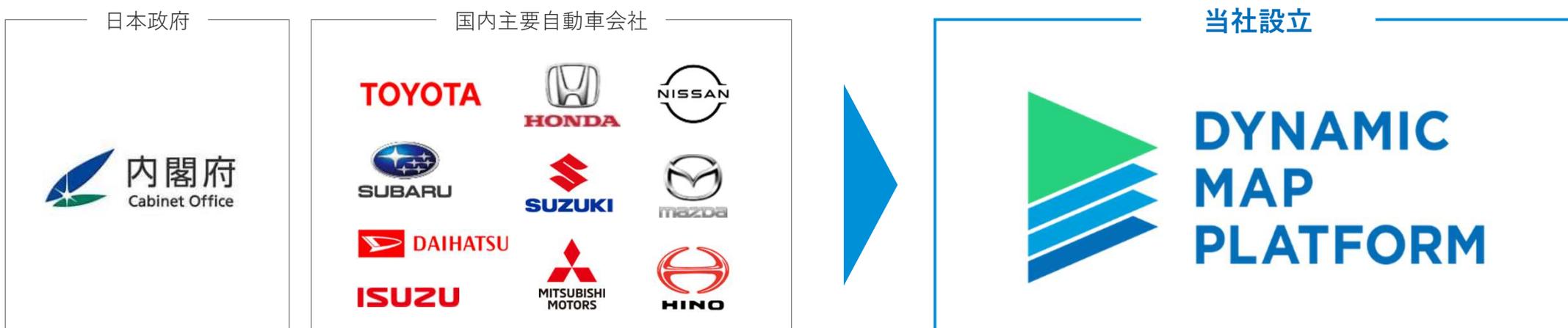
会社概要

会社名	ダイナミックマッププラットフォーム株式会社（証券コード: 336A）
設立	2016年6月13日
本社所在地	東京都渋谷区渋谷二丁目12番4号
拠点	日本、米国、ドイツ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、韓国
従業員数	251名（2026年2月時点） ⁽¹⁾
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動運転・先進運転支援システム等に利用される高精度3次元地図データ（HDマップ）の生成・販売 ● HDマップ関連技術を用いた（自動運転以外の）多用途での高精度位置情報・ソリューションの提供

設立経緯

日本政府主導により、国内主要自動車会社等が出資し、当社が設立

その後、General Motors Companyの投資先であった在米国HDマップ企業を完全買収し、グローバルに事業展開



注：(1) 従業員数には派遣社員を含む

数字でみるダイナミックマッププラットフォーム

グローバルにビジネス展開し高い売上成長率で事業拡大

74億円

連結売上高

2025年3月期

26カ国

進出国数⁽³⁾

北米、欧州、日本
韓国、中東

64%

海外売上高比率

2025年3月期

52%

連結売上高
年平均成長率

2025年3月期まで5年間

37%

自動運転/先進運転支援
システム市場年平均成長率⁽¹⁾

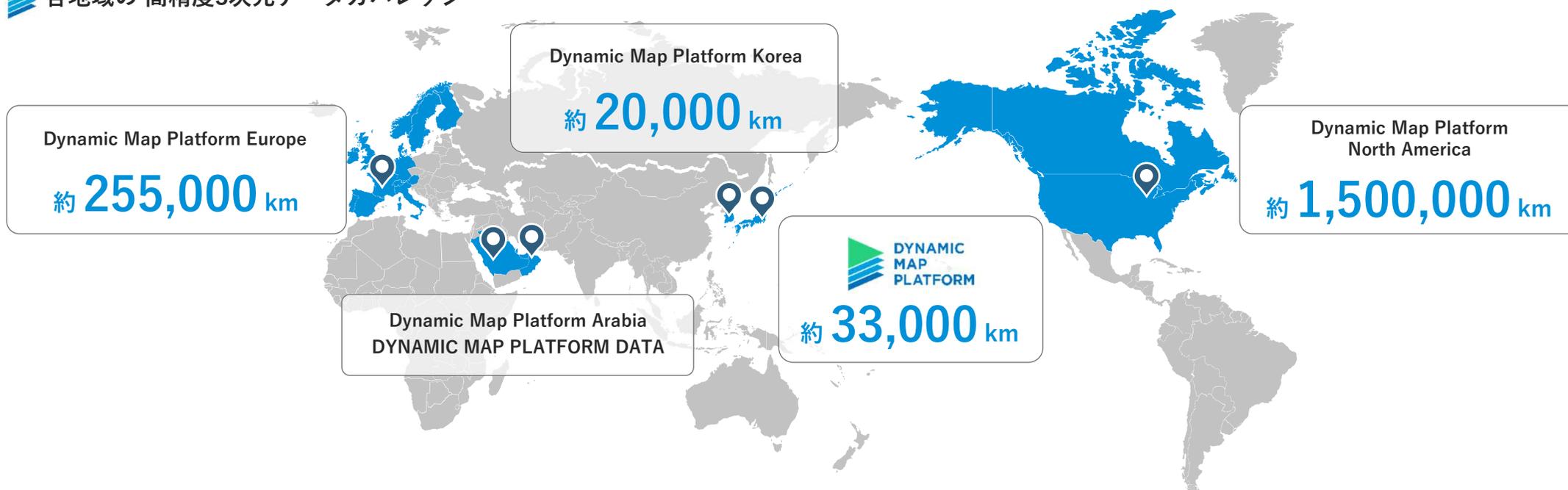
2022実績-2030予想

1.6兆円

デジタルマップ
市場規模⁽²⁾

2023実績

各地域の高精度3次元データカバレッジ⁽⁴⁾



出所：(1)「IHS Markit “Autonomous Vehicle Sales Forecast 2023”」を基に当社作成 (2)「Markets and Markets “Digital Map Market Global Forecast to 2029”」を基に当社作成。為替レートは150円/ドルで計算 (3)(4) 2026年2月時点

ハイライト

Global Deep-tech

ダイナミックマップという高精度な位置情報基盤をグローバルに構築するディープテック型のスタートアップ

High Growth

日系大手自動車メーカー10社やGeneral Motors Company / 日本国政府等の優良な顧客基盤を持ち高い売上成長性を実現可能

High Competitiveness

競合比でも圧倒的な高精度3次元データを保有しており世界初の自動運転レベル2+・レベル3の実現に寄与してきた高い技術力を有している競争優位性

High Profitability

ビジネスモデルについてはプロジェクト型ビジネスとライセンス型ビジネスの2本柱
プロジェクト型ビジネスを通じてデータ基盤が整っており、以降は高い利益率が期待できる
ライセンス型ビジネスによって高収益体質の実現を目指す

Modeling The Earth

高精度3次元データプラットフォームとして様々な情報を集約
分析・制御・予測が可能な世界を実現し、社会課題解決に資する
イノベーションを実現

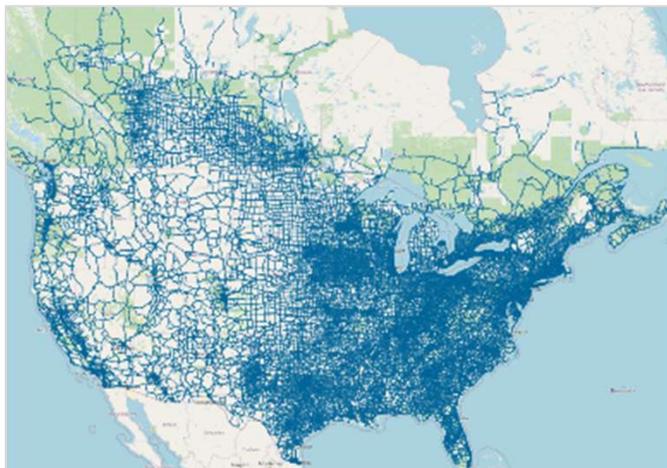


高精度3次元データをグローバルに構築（180万kmのデータを整備済）

先行投資の成果として、大手自動車メーカーの要求を充足し、かつ圧倒的なカバレッジを有するデータをグローバルに構築
整備済の180万kmに及ぶデータは自動運転/先進運転支援システム向け利用にとどまらず、世界各国における産業のデジタル化、
社会課題解決に貢献する大きなポテンシャルを有する

 北米における当社データカバレッジ

1,500,000 km



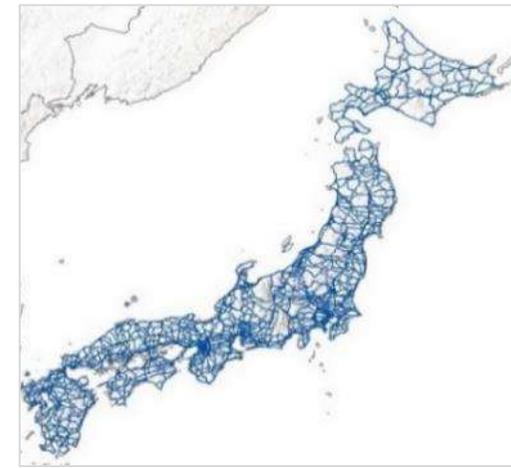
 欧州における当社データカバレッジ

255,000 km



 日本における当社のデータカバレッジ

高速道路 **33,000** km



 その他地域における当社のデータカバレッジ

韓国

高速道路

20,000 km

中東

高速道路

26年度中の整備完了見込み

先進国地域の整備は概ね完了

業界横断的な社会へのインパクト（高精度3次元データの活用領域）⁽¹⁾

高精度3次元データは様々な産業においてゲームチェンジャーとなり得るキーテクノロジー

自動運転/先進運転支援システムや3Dデータビジネスを超えて社会全体の高度化を牽引。活用領域の拡大に取り組み



注：(1) 上記は当社グループが2025年3月の時点でまだ進出していない分野を含む、ターゲット市場のイメージ (2) レベル0：運転自動化なし、レベル1：運転支援（ハンズオン/シェアードコントロール）、レベル2：特定条件下での自動運転機能（ハンズオフ）、レベル2+：高速道路での条件付自動運転、レベル3：条件付自動運転（アイズオフ）、レベル4：特定条件下における完全自動運転（マインドオフ）、レベル5：完全自動運転（ドライバーストアフ）

各種データ連携を通じたダイナミックマッププラットフォーム構築

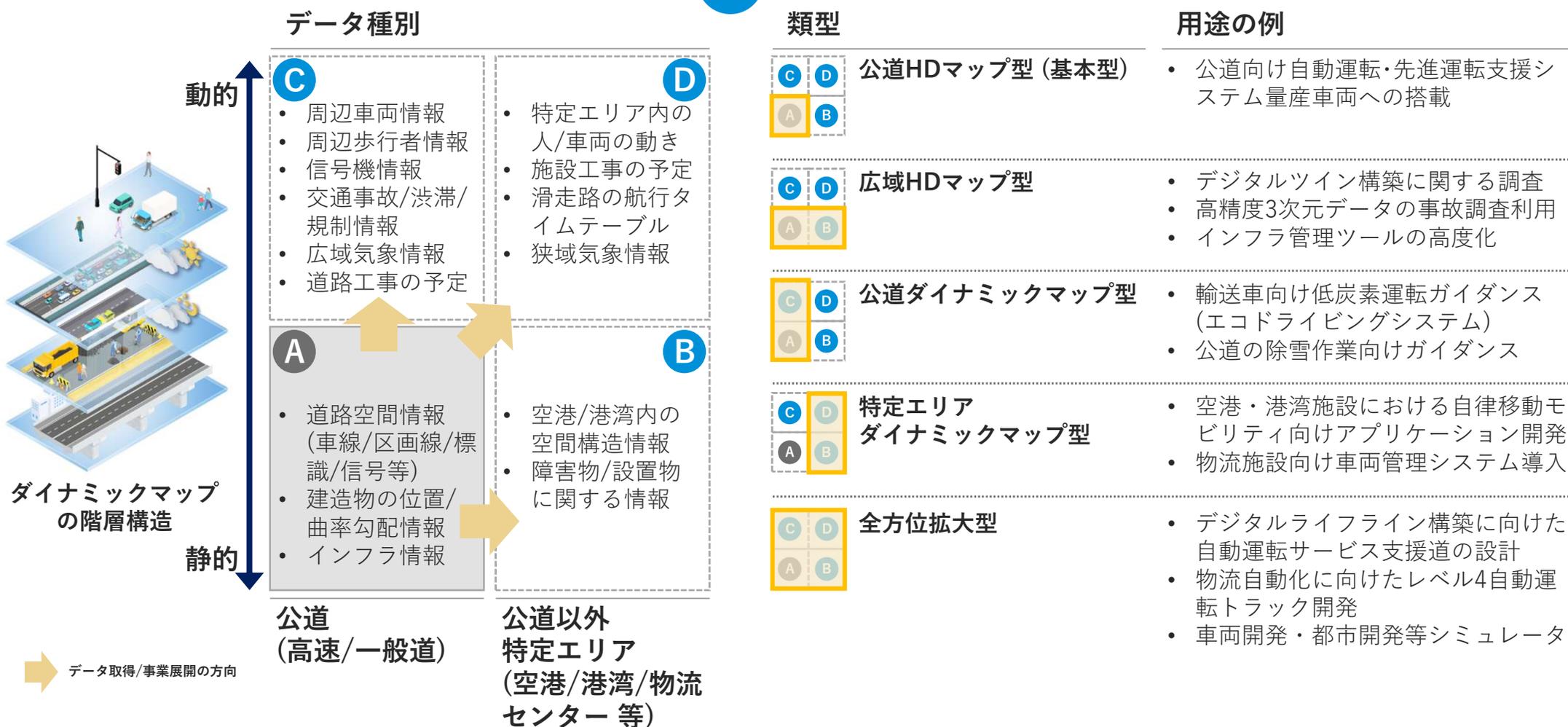
当社が提供する高精度3次元データはダイナミックマップにおける高精度な位置情報基盤となる

公道における静的なデータ取得からスタートし様々な動的データの収集・システム化を進めるとともに、公道以外特定エリアへの展開及び動的データを統合するアプリケーションの開発・導入を進め、ダイナミックマップの構築に取り組む

ダイナミックマップの社会実装に向けて、より広範なデータ取得・連携に取り組む

ダイナミックマップを構成するデータ

各種データの取得・連携により実現されるユースケース



ビジネスモデル全体像（プロジェクトとライセンスの2本柱）

プロジェクト型ビジネス：一定の粗利率を前提に受注

ライセンス型ビジネス：整備済みデータ等を活用したビジネスであり高い収益性を期待できる

プロジェクト型

事業基盤構築

- 一定の粗利率を前提に案件を選別して受注
- R&Dとしての役割、自己投資を減らしながら事業基盤を構築
- 売上原価は主にプロジェクト受注に伴う変動費

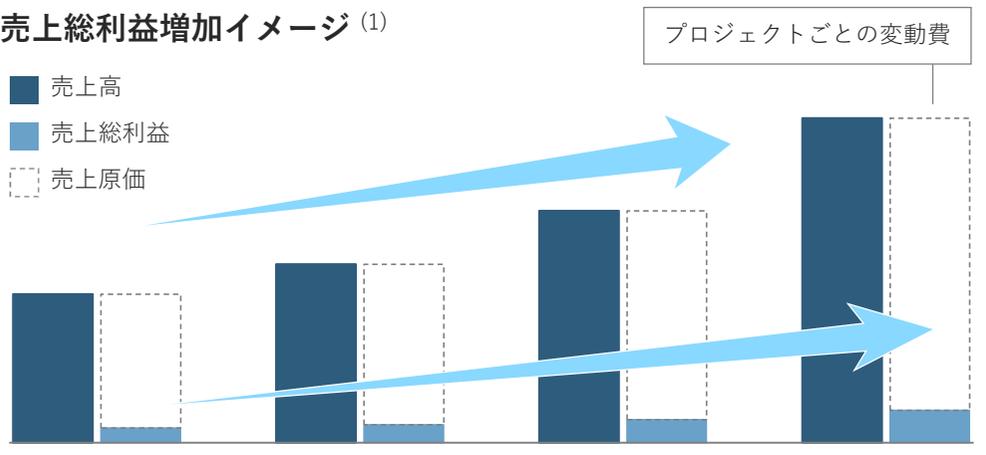
A オートモーティブビジネス

GM他を顧客とした
HDマップカバレッジ拡大及び更新

B 3Dデータビジネス

官公庁主導の研究開発案件多数

売上総利益増加イメージ (1)



ライセンス型

高い収益性を狙う

- 整備済みのアセット（データ・システム）を活用
- 単価×数量で算定される量産ライセンス売上と法人データライセンス売上で構成
- 売上原価は固定的であり、粗利率が高い

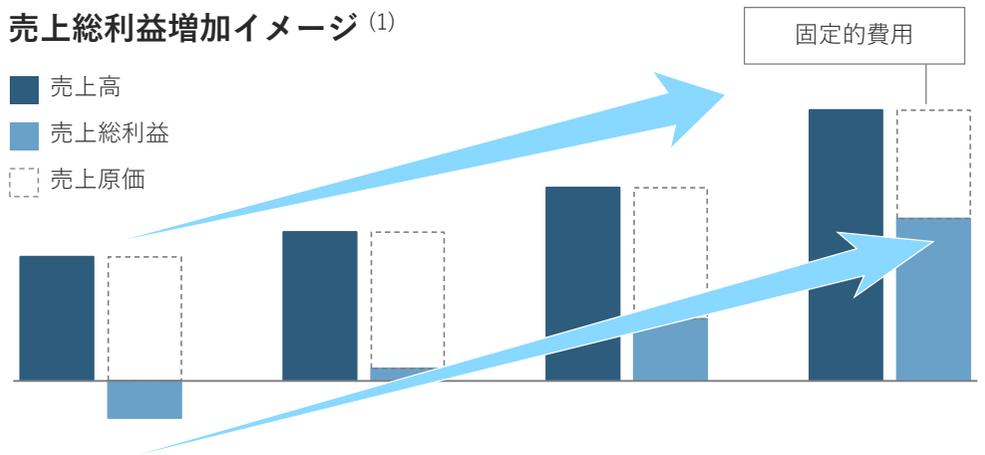
C オートモーティブビジネス

量産車へのHDマップ提供
(量産ライセンス)
法人データライセンス

D 3Dデータビジネス

多用途展開可能な
プラットフォーム構築
法人データライセンス

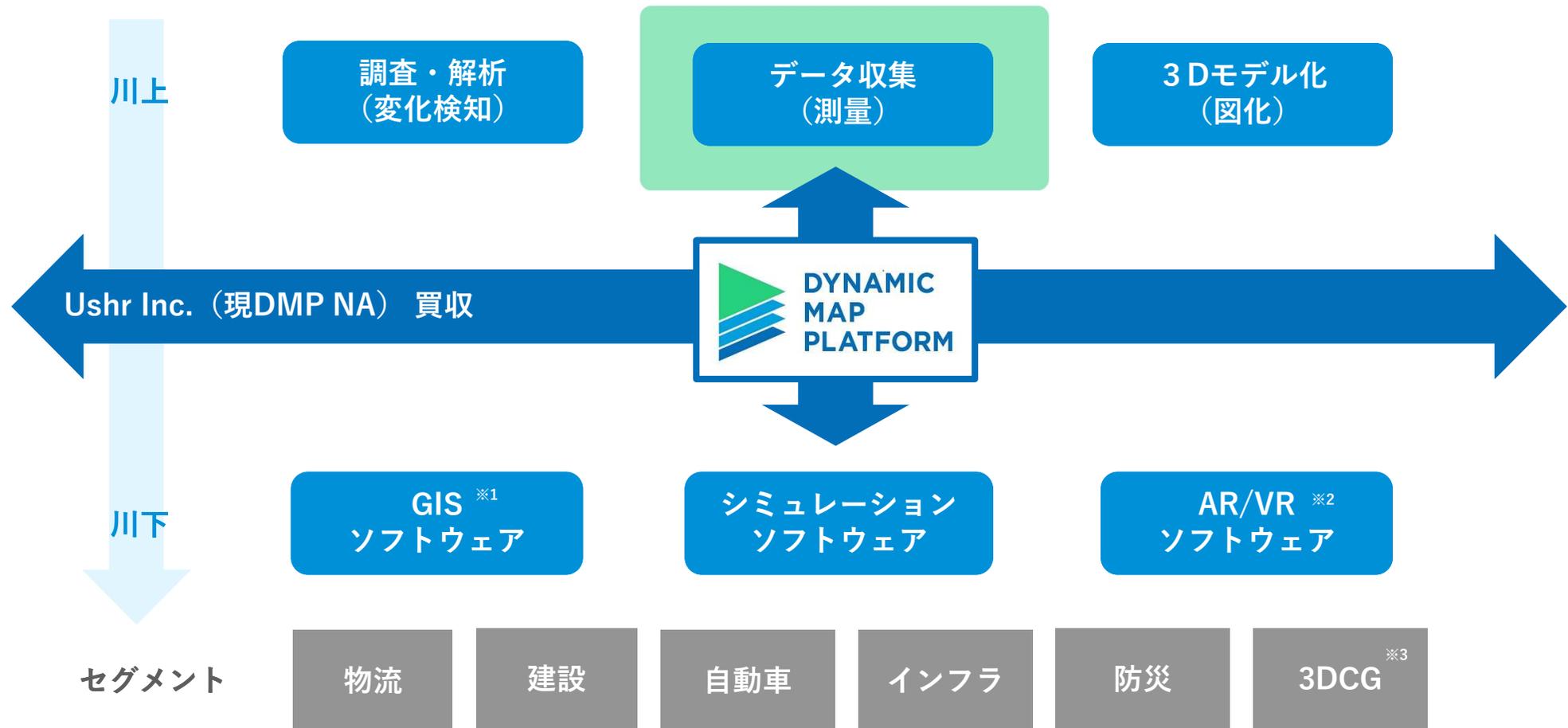
売上総利益増加イメージ (1)



注：(1) 売上総利益増加イメージ通りの成長を保証するものではありません

M&Aによる事業領域拡大の取り組み

市場シェア獲得を目的とする「水平統合型」のM&Aは、2019年のUshr Inc.（現Dynamic Map Platform North America）を買収し、HDマップ市場で世界一のポジションを獲得。「垂直統合型」のM&Aとして、川上・川下のそれぞれの領域が対象
川上におけるデータ収集を担う測量業界のネットワーク化に取り組み



※1: Geographic Information System ソフトウェア (地理空間データを扱う為のシステム) 2: Augmented Reality (現実世界にデジタル情報を重ねて表示する技術) / Virtual Reality (完全な仮想空間を構築し、ユーザーを没入させる技術) ソフトウェア
3: 3次元コンピュータグラフィックス (コンピュータを使って立体的な映像やモデルを作成する技術)

測量ネットワーク構築

地域のデジタルインフラ整備を担う測量会社のネットワーク化に取り組み。第1号案件として、富山県内の測量会社を子会社化。当社のビジョン「Modeling the Earth」実現に向け、測量技術の拡充と機動的な測量体制を確立するとともに、地域のデジタルインフラ整備、測量機能維持に貢献することが目的。広範なデータ整備を通じて、当社グループのビジネス拡大につなげる

測量能力拡大の必要性（当社の課題）

狭域・特定エリアにかかわるソリューション提供において、**基盤データ取得のための測量が必要**

測量技術の拡充

- 公道とは異なる計測手段（ドローン、ハンディスキャナ等）の確保、最新技術の採用

機動的な測量体制

- 施設運用をさまたげない迅速、かつ柔軟な測量作業

地域の測量業界を取り巻く課題

地域のインフラ整備の担い手確保が困難になる
新技術導入が進まず、デジタルインフラ整備が遅延する

業界再編

- 地域で安定的な受注が確保出来る為、小規模事業者の再編が進みにくい

人材育成

- 周辺業種・大手測量会社との比較において、待遇面から人材が流出（特に、若年層・中堅層）

技術導入

- 資金面から最新機材への投資が困難であり、3次元測量/ドローン測量等の新技術導入が進まない

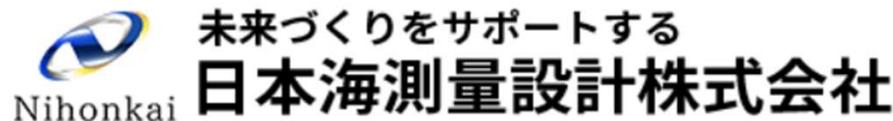
測量会社のネットワーク化に取り組み

当社事業に必要なデータ整備を進めると同時に
地域のインフラに係わる社会課題解決に貢献



広範なデータ整備を通じて更なるビジネス拡大へ

- 測量・調査・土木設計を行う日本海測量設計株式会社を子会社化



（本社：富山県高岡市）

- ロールアップによるネットワーク化を展望

当社の測量事業を統括する「ダイナミックマッププラットフォームコンサルタンツ株式会社」を立ち上げ



測量ネットワーク構築 -測量能力拡大の必要性-

空港/港湾/物流センター等、狭域・特定エリアにかかわるソリューション提供において、基盤データ取得のための測量が必要
→事業拡大の為には測量技術の拡充と機動的な測量体制が必要であり、既存パートナーに加え自社で測量能力を保有する必要

3次元測量の技術動向

- センサ性能の向上や機材の小型化により、データの正確性と迅速性が向上
- 幅広い空間での精密なデータ取得が可能となり、ICT施工やデジタルツイン構築等利用が広がっている

測量システム

MMS



- 車両にLidarとカメラ等を搭載し、移動しながら連続測量
- 走行ルートの道路周辺の点群を高精度に取得

航空測量



- 航空機にカメラやLiDARを搭載し高高度から広域データを取得

ドローン



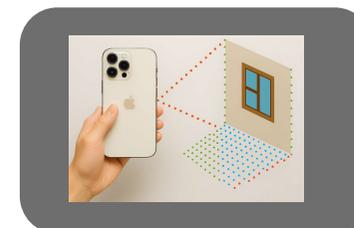
- レーザまたはカメラを搭載し、短時間で広範囲のデータ取得が可能
- 樹木の下の地形も取得可能で、森林や災害地での活用が進む

地上型レーザ／ハンディレーザースキャナ



- 地上でレーザーを照射し測定
- 建物内部や地下空間にも対応

スマホ Lidar・画像



- スマホに搭載されたカメラ、LiDARを活用し、手軽に3D測量が可能

データ処理

- **AIとの融合**：画像や点群データの自動分類・認識、リアルタイム解析が可能に
- **リアルタイム処理**：5G/6G通信を活用し、現場からクラウドへ即時送信・共有
- **非GPS環境対応**：GPSが届かない環境での自己位置推定と地図生成

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。